

Life・Culture & Welfare 地域から発信 福祉を文化へ

焼津福文共通信第67号

「焼津福祉文化共創研究会」事務局

〒425-0044 焼津市石津向町 15-17

百の木デイサービス石津内

Tel.: 054-623-3665 Fax.: 054-656-3731

編集委員 望月隆仁 河野恵介 原崎洋一 原崎幸子 平田厚

市民主体の“港地域ささえあい講座” 3年間の開講から、本会結成6年 いよいよ2025年度は、「地域を学ぶ合う」7年目の活動に入る

改めて、本会結成の原点を振り返ると平成28年度に、「港地域を知る」「楽しくご近所同士が学び合う居場所」「みんなで支え合うアイデアを出し合う」等を基本に、平成30年度まで3年間、市民主体の実行委員会(25名)を結成し初年度は、「高齢者問題」を中心の学習テーマで開講。2年目は、身近な地域社会に目を向けたときに、学びたい課題として「児童を取り巻く問題」を追加し、更に、3年目には、「障害児者問題」を学習テーマに、参加者同士で意見を出し合う「ワークショップ方式」と、楽しく学ぶ「アイスブレイク」を組み入れて展開した。こうした3年間の講座の参加者の実績は下記の通り。



年度	第1回	第2回	第3回	第4回	計
平成28年度	56名	48名	49名		153名
平成29年度	79名	60名	52名	59名	250名
平成30年度	50名	54名	52名	55名	211名
合計					614名

延べ614名が学び合い、「港地域支えあい講座」における成果を下記のようにまとめた。

港地域ささえあい講座の実践活動の成果

1. 世代を越えて語れる環境づくり
2. 身近な地域社会の「福祉課題」を発見する(地域性)
3. 自助及び共助による地域創りと公助による協働の構築
4. 理論と実践、専門性(管内介護事業所、企業、学校)と市民性をいかに『融合』出来るかを検証する場
5. 集めるコミュニティから集まるコミュニティ
6. プロセス重視
7. 「見える化」「わかるか化」の工夫 **通信発行**
8. つながる、ささえあう港地域づくりの担い手は住民一人ひとりの意識啓発学習



講座から得た尊い地域づくりの礎をもとに、講座に関わった有志により、令和元年度に本会が結成して、ここまで6年間活動に取り組んできた。「集める」ではなく「集まる」を基本にして、年度ごとの活動テーマをもとに、人脈とともに活動の拠点を維持しながら、尊い「焼津市赤い羽根共同募金 地域福祉促進助成事業」「静岡県コミュニティづくり推進協議会 コミュニティ活動集団助成事業」「公益財団法人さわやか福祉財団 地域助け合い基金助成事業」等これまで活動財源の開拓に努め、港地域の課題を学習化する活動を展開し、下記の通りその年度の検証結果を地域住民に情報発信してきた。

■1年目(2019年度)

活動テーマ【港地域の“ご近所”を切り拓く 集まる居場所で地域ぐるみのささえあいを検証する】

約5,000世帯をもって構成されている「港地域づくり推進会」(港第14・23自治会)管内において、今日まで地域や個々の人々のつながりの中で、気兼ねなく集まり会話を交わし、ふれあい交流し普段の拠り所としている「居場所的機能」を持つ55の既存の各種団体・グループを把握し、「集める居場所から集まる居場所」を課題提起した。

■2年目(2020年度)

活動テーマ【港地域のご近所を切り拓くパート2ー協働による地域課題解決を探る】

管内関係団体や住民に機会があるごとに情報を提供し、改めてこうした既存の団体グループの様々な取り組みを地域住民が共有し、積極的に地域参加する機会を呼掛け「ご近所福祉 その意識と実態調査」に取り組み、地域で顔の見える“近助”の関係づくりができる「協働による地域づくり」を働きかけた。

■3年目(2021年度)

活動テーマ【港地域をつなぐ・ささえあう“ご近所福祉”を創る】

港地域の現状を踏まえ地域を家庭化し、誰もが地域づくりに関われるご近所を“地域の居場所”としていく活動に取り組むとともに、子どもを対象に管内関係団体・学校関係者の協力により「福祉ってなに? 244名の子どもたちにききました調査」に取り組み、尊い子どもたちからの意見を大人社会への提言としてまとめた。

■4年目(2022年度)

活動テーマ【わかる・見える実践活動で“福祉文化としてのご近所福祉”を探る】

「みんなで創る福祉を学ぶ講座」を開講し、「子どもたちから大人社会への提言」を改めて地域住民と共有する学習の機会を持った。長引く厳しいコロナ禍の中で、「高齢者」を取り巻く地域環境を危惧し、「地域共生社会を拓く～ホッとする地域づくりは誰が担うか～」を掲げて、「ホッとする安心した地域づくり その意識と実態調査」に取り組み、管内の315名の高齢者から尊い意見をいただき、地域社会に向けて「ホッとする地域づくり」を問題提起した。県域を対象に活動している「静岡福祉文化を考える会」と協働で「地域共生社会調査研究部会」を設置し、地域共生社会をめざす仕組みを検証した。

■5年目(2023年度)

活動テーマ【港地域のニーズ把握から“福祉文化としての港地域のご近所を描く”】

地域社会では、中学生の地域参加を大いに期待しながらも、地域コミュニティの希薄化、家庭・家族機能やご近所福祉が多様化するとともに、加えて厳しいコロナ禍下において、若者との日常的な交流環境には至っていない。管内の中学生対象に、身近な地域に対する意識と実態を把握し、世代間交流できる地域社会づくりに、若者の地域参加の必要性を呼びかけ、地域社会の活性化と、地域づくりの再構築を検証する目的で、「私にとって“ご近所”とは、中学生の意識と実態調査」を実施した。

協働団体の「静岡福祉文化を考える会」とともに、「共創社会実現研究会」を設置(10回開催)し、管内2つの中学校(小川・港中学校)をはじめ、小川地区及び港地区のコミュニティ推進組織、焼津市民生委員児童委員協議会、さわやかクラブ連合会やいづ等の協力のもと、中学生からの意見をまとめ、「若者が参画できる地域づくりに向けた大人社会への提言」としてまとめ、地域社会に働きかけた。

■6年目(2024年度)

活動テーマ【活動5年間の調査研究事業実績から、“ご近所福祉”を検証する】

5年間の活動から浮き彫りにした検証事項「地域ぐるみの居場所」「ご近所の支え合い」「子どもを取り巻く地域」「高齢者を取り巻く地域」「中学生のご近所の意識と実態」を改めて振り返りながら、ホッとする「ご近所福祉」について、会員の身近なご近所の現状をもとに研究協議をした。

併せて、協働団体:静岡福祉文化を考える会とともに、「共創社会実現研究会」を設置(全8回)し、地域福祉教育教材として作成し10年間、「若者発 ご近所福祉かるた」を配布提供してきた、関係団体・地域実践者・居場所設置地域等に「活用状況調査」を実施し、実践的体験的学びの内容を、「若者発 ご近所福祉活用事例集」に取り入れ、成果物を広く県内各領域に配布提供した。

いよいよ2025年度は、本会活動7年目に入る。これまでの取り組みをもとに、引き続き、“ご近所福祉”を身近に語り合う活動を検討していきたい。

**2024年度活動テーマ「活動5年間の調査研究事業実績から“ご近所福祉”を検証する」
●令和5年度「私にとって“ご近所”とは 中学生の意識と実態調査」を検証議論**

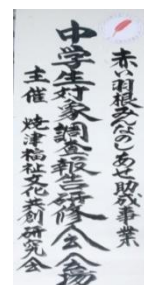
2024年度は、「活動5年間の調査研究事業実績から、“ご近所福祉”を検証する。」を活動テーマに掲げ、これまで実施した「調査の検証」について、毎月の定例研究会で議論をしている。今回は、2月定例研究会(2月8日開催)で検証した、本会5年目の「私にとって“ご近所”とは 中学生の意識と実態調査」の議論を紹介する。

●令和5年度「私にとって“ご近所”とは 中学生の意識と実態調査」に取り組む

本会結成5年目は、尊い市民の赤い羽根共同募金「赤い羽根助成事業」により、「私にとって“ご近所”とは 中学生の意識と実態調査」を実施した。この事業を実施するにあたり、めざす目標の共有・地域資源の共有・活動の歩調の共有・対等な関係の機能の共有を念頭に、「協働団体：静岡福祉文化を考える会」と、地域社会の現状認識、計画に基づく円滑な調査の展開協議(調査個票作成、調査集計・分析、調査結果考察、調査報告書編集、調査公表検討等)の議論や、調査結果をもとに、地域の教育力、次世代の地域の担い手の育成の課題や、若い世代の積極的な地域参加できる地域環境を醸成し、世代を超えた地域ぐるみの支え合いにより、地域共生社会づくりのあり方を大人社会に提言するための議論をする目的で「共創社会実現研究会」設置した。

管内2つの中学校「焼津市立小川中学校」「焼津市立港中学校」との協力を積み重ね、生徒の主体的な調査活動への協力をお願いした。地縁組織の「小川地区コミュニティ推進会」「港地域づくり推進会」への協力も呼び掛けた。関連団体の「さわやかクラブ連合会やいづ」「焼津市民生委員児童委員協議会」には、本事業のご理解を文書でお願いをした。

- 調査票・項目の検討：「第1回共創社会実現研究会(調査部会)」を開催 「本事業計画」「調査実施要項」「調査票」作成等を協議。その後、管内2つの中学校との協議。
- 調査依頼(実施期間)：2つの中学校に、正式調査協力依頼文書をもって「調査票」(各校生徒数分を届けた。地縁組織の「小川地区コミュニティ推進会」「港地域づくり推進会」等へ経過報告。
- 回収・入力(単純集計)期間：「第4回共創社会実現研究会(調査部会)」開催。小川中学校より、調査票回答281枚、港中学校より調査票回答195枚届く。合計476枚回答(全体の81%)
- 調査協力 焼津市立小川中学校 焼津市立港中学校 小川地区コミュニティ推進会 港地域づくり推進会 焼津市民生委員児童委員協議会 さわやかクラブ連合会やいづ
- 2024年2月3日(土)、石津コミュニティ防災センターにおいて、「調査報告会」を開催。学校関係者、自治会・町内会、民生委員の皆さん等30名が参加し、熱心に意見を交わした。



●「5年目の調査検証」考察概要

1. 本会の地域の課題発掘の「調査活動」5年間のプロセスから、学校・地域との「協働」による地域活動を検証する「調査研究事業」として、2つの学校の全面的協力を実施した。小川・港2つの中学校の生徒から、約81%の協力により回答をいただいた。本会は、結成の目的からも、決して課題を解決するためのグループではなく、あくまでも地域の課題をその都度掘り起こし、地域社会に問題提起をし、市民の皆さんがそれぞれの立場で、話題にし、また各領域で、参考にしていただく目的を持つ。
2. 中学生の意見から、小地域における地域の支え合いの仕組みの“アイデア”を考える機会をつくる。中学生は、しっかりと地域社会を受け止め、地域が抱えている課題を認識している。若者の意見を大人社会がしっかりと受け止めて地域づくりに活かす努力。
3. 476名の中学生から、「大人社会への15の提言」としてまとめる。
 - (1)多彩な趣味・特技を持つ中学生の持ち味を、地域活動の場で活かしてみたい回答約4割。
地域参加の糸口(きっかけ)をつくる機会を、常にコミュニティ組織運営において心掛けたい。
 - (2)いまの生活環境に満足をしている中学生であり、ホッとする居場所(家庭・自分の部屋)も心得ている。家族とも楽しく生活している環境だと回答のある中で、悩みごとを8割の中学生は持つ。
 - (3)大人への成長過程で、抱えている悩みを相談できる相手は、家族から友人へと変化をしている。

父親の存在が見え隠れしている傾向が伺える。語れる家庭環境づくりを心掛けていく。

- (4) 友人関係は幅が広く、お互いに話せる環境は維持できていると受け止められる
- (5) 大人社会を取り巻く家庭環境にあって、「家事労働」の位置づけは、小学生と比較すれば減少傾向。
- (6) コミュニティ組織運営の認識や理解は、希薄化傾向にある。日頃から近隣社会の共助のあり方を大人社会から意識を高め合い、中学生を地域社会につなげる工夫をしていきたい。
- (7) 誰もが、安心して暮らせる地域である回答が6割、まだまだお互いに努力をしていく必要の回答。自分から進んであいさつをする回答が約3割。
- (8) 中学生の持ち味を発揮する意見で、楽しい行事を創る「トータルコーディネート機能」を期待。
- (9) 住みよい地域であるとの回答が92%あった。福祉視点からは、ご近所づきあいが良い回答。
- (10) 身近な地域の情報入手は「家族」が一番多い回答。「回覧板」からの情報入手を心得ている。
- (11) 身近な地域社会の中で、日常的なふれあい交流や実体験の機会をもたない回答が93%。
- (12) 必要な支援やサービスの回答は、「見守り・声掛け(安否確認)」「災害時の手伝い」「買い物支援」「話し相手」「簡単な介助・介護」「移動支援」「定期的なふれあいサロン」「配食」等、大人社会に求めた回答とほぼ同じ内容の回答。
- (13) 「ともに、助け合う地域づくりへの提言」(自由意見)から、①若者にもわかる、地域活動の動きを知りたい。(地域活動の「見える化」「わかる化) ②若者の意見を地域活動に活かせる機会を考えてほしい。(誰もが参画する地域づくり) ③若者も気軽に、地域の行事に参加出来る呼掛けを期待したい。(気軽に参加できる環境) ④ご近所で、いつでも、地域のことが話せるようにして、住民が地域に関心をもつ努力。⑤地域の情報提供の工夫。(広報啓発の開拓)
- (14) 地域に貢献したい回答が多い。大人社会は、地域参加の役割分担を明確に示すこと。
- (15) 「赤い羽根共同募金活動」を地域全体で取り組む努力。



シリーズ⑪ 若者発 ご近所福祉かるたで学ぶ

このコーナーでは、平成27年度・令和3年度・令和6年度に、協働団体：静岡福祉文化を考える会が、赤い羽根共同募金地域福祉広域助成事業により、世代を超えて身近な地域社会を学ぶ、地域福祉教育教材として作成した「若者発 ご近所福祉かるた」を本誌第57号から「シリーズ」で紹介。今回は「と」「な」「絵札」は、漫画家 法月理栄様が作画。

*かるた等の問い合わせは、事務局まで



何か一つは、他人に誇れる趣味・特技を誰もが持ち合わせています。「地域デビュー」で生きがいづくりに心掛けていきましょう。



日頃から、ご近所さんに相談できる地域環境づくりに心掛けましょう。困った時には、「三人寄れば文殊の知恵」です。

焼津福祉文化共創研究会事務局日誌拝見(1/18~3/1)

- 1/18 焼津市V連絡協議会代表者会出席(実施報告書様式配布有)
- 1/22 関係団体会議で、本会活動状況報告
- 2/08 研究会通信第66号編集・配布・メール送信作業
- 2/15 第71回定例研究会開催
- 2/25 研究会通信第67号編集作業実施
- 3/01 令和7年度活動計画検討 研究会通信第67号配布・メール送信作業
- *今後の予定 3/08 第4回焼津市V連代表者会開催(令和6年度活動実施報告書提出)
- 3/27 第72回定例研究会開催



研究会QRコード 考える会QRコード